

表リスト

〔高齢者世帯調査の地域別集計表〕

表1	地域別、世帯員数	
表2	地域別、同居している世帯員:	成人子・成人子配偶者・成人子の子・成人子の子配偶者
表3	地域別、現在の住居の種類	
表4	地域別、世帯収入合計の平均値(万円)	
表5-1	地域別、孫のいる成人子への経済援助:	子どものレジャー費用
表5-2		子どもの生活費補助
表5-3		子どもの耐久消費財購入費用
表5-4		孫の学費
表5-5		孫の習い事費用
表5-6		孫のための積立
表5-7		孫へのプレゼント
表5-8		孫へのこづかい
表6-1	地域別、孫のいる成人子への妻の援助:	孫の身の回りの世話, 孫の送り迎え, 子ども宅の家事手伝い
表6-2	孫のいる成人子への夫の援助:	〃
表6-3	地域別、孫のいる成人子への妻の援助:	病気・急用時の孫の世話, 孫の悩み相談
表6-4	孫のいる成人子への夫の援助:	〃

高齢者世帯調査の地域別集計表

表1 地域別、世帯員数

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	不詳	合計
関東	41	346	93	60	112	117	44	12	2	2	3	3	22	857
関西	25	227	66	42	64	69	32	12	4	2	1	1	10	555
合計	66	573	159	102	176	186	76	24	6	4	4	4	32	1,412

表2 地域別、同居している世帯員：成人子・成人子配偶者・成人子の子・成人子の子配偶者

	同居世帯員：あなたの子ども					あなたの子どもの配偶者				
	選択 (○)	世帯主 (◎)	選択せ ず	不詳	合計	選択 (○)	世帯主 (◎)	選択せ ず	不詳	合計
関東	401	36	398	22	857	276	25	534	22	857
関西	254	24	267	10	555	161	24	360	10	555
合計	655	60	665	32	1,412	437	49	894	32	1,412

	あなたの子				あなたの子の配偶者			
	選択 (○)	選択せ ず	不詳	合計	選択 (○)	選択せ ず	不詳	合計
関東	347	488	22	857	17	818	22	857
関西	212	333	10	555	10	535	10	555
合計	559	821	32	1,412	27	1,353	32	1,412

表3 地域別、現在の住居の種類

	妻の親 の家	夫の親 の家	妻の親 の土地 に建て た自分 (達)の 家	夫の親 の土地 に建て た自分 (達)の 家	親の援 助で取 得した 自分 (達)の 家	親の援 助なし で取得 した自 分(達) の家	親の援 助があ る賃貸 住宅	親の援 助がな い賃貸 住宅	その他	不詳	合計
関東	16	41	40	66	49	475	1	62	93	14	857
関西	14	40	23	37	35	281	-	54	63	8	555
合計	30	81	63	103	84	756	1	116	156	22	1,412

表4 地域別、世帯収入合計の平均値(万円)

	度数	平均値
関東	437	498.3
関西	299	423.6
合計	736	

表5-1 地域別、孫のいる成人子への経済援助：子どものレジャー費用

	なし	5千円 未満	5千-1 万未満	1-2万 未満	2-5万 未満	5-10万 未満	10-20 万未満	20-30 万未満	30万以 上	不詳	合計
関東	359	36	53	82	90	71	34	15	4	113	857
関西	239	20	32	58	49	45	18	5	6	83	555
合計	598	56	85	140	139	116	52	20	10	196	1,412

表5-2 地域別、孫のいる成人子への経済援助：子どもの生活費補助

	なし	5千円 未満	5千-1 万未満	1-2万 未満	2-5万 未満	5-10万 未満	10-20 万未満	20-30 万未満	30万以 上	不詳	合計
関東	564	7	4	17	38	27	29	14	44	113	857
関西	323	4	3	15	34	28	14	7	34	93	555
合計	887	11	7	32	72	55	43	21	78	206	1,412

高齢者世帯調査の地域別集計表

表5-3 地域別、孫のいる成人子への経済援助:子どもの耐久消費財購入費用

	なし	5千円未満	5千-1万未満	1-2万未満	2-5万未満	5-10万未満	10-20万未満	20-30万未満	30万以上	不詳	合計
関東	602	5	6	13	22	24	17	10	37	121	857
関西	373	2	7	11	18	10	12	2	23	97	555
合計	975	7	13	24	40	34	29	12	60	218	1,412

表5-4 地域別、孫のいる成人子への経済援助:孫の学費

	なし	5千円未満	5千-1万未満	1-2万未満	2-5万未満	5-10万未満	10-20万未満	20-30万未満	30万以上	不詳	合計
関東	705	3	-	4	4	1	4	4	4	128	857
関西	443	1	-	1	3	2	1	-	2	102	555
合計	1,148	4	-	5	7	3	5	4	6	230	1,412

表5-5 地域別、孫のいる成人子への経済援助:孫の習い事費用

	なし	5千円未満	5千-1万未満	1-2万未満	2-5万未満	5-10万未満	10-20万未満	20-30万未満	30万以上	不詳	合計
関東	679	7	15	4	7	6	4	2	5	128	857
関西	430	3	8	4	-	3	1	1	3	102	555
合計	1,109	10	23	8	7	9	5	3	8	230	1,412

表5-6 地域別、孫のいる成人子への経済援助:孫のための積立

	なし	5千円未満	5千-1万未満	1-2万未満	2-5万未満	5-10万未満	10-20万未満	20-30万未満	30万以上	不詳	合計
関東	523	13	24	36	29	23	39	16	29	125	857
関西	337	14	27	28	10	12	14	6	12	95	555
合計	860	27	51	64	39	35	53	22	41	220	1,412

表5-7 地域別、孫のいる成人子への経済援助:孫へのプレゼント

	なし	5千円未満	5千-1万未満	1-2万未満	2-5万未満	5-10万未満	10-20万未満	20-30万未満	30万以上	不詳	合計
関東	16	81	147	224	229	83	35	9	8	25	857
関西	10	57	99	135	156	57	19	3	-	19	555
合計	26	138	246	359	385	140	54	12	8	44	1,412

表5-8 地域別、孫のいる成人子への経済援助:孫へのこづかい

	なし	5千円未満	5千-1万未満	1-2万未満	2-5万未満	5-10万未満	10-20万未満	20-30万未満	30万以上	不詳	合計
関東	52	144	171	176	162	81	32	9	7	23	857
関西	23	81	101	144	118	45	13	5	3	22	555
合計	75	225	272	320	280	126	45	14	10	45	1,412

高齢者世帯調査の地域別集計表

表6-1 地域別、孫のいる成人子への妻の援助：孫の身の回りの世話、孫の送り迎え、子ども宅の家事手伝い

	孫の身の回りの世話							孫の送り迎え								
	ほぼ毎日	週3-4回	週1-2回	月1-2回	年に数回	なし	不詳	合計	ほぼ毎日	週3-4回	週1-2回	月1-2回	年に数回	なし	不詳	合計
関東	212	63	89	118	130	161	84	857	38	25	45	49	127	364	209	857
関西	133	43	54	76	79	108	62	555	31	10	22	40	63	248	141	555
合計	345	106	143	194	209	269	146	1,412	69	35	67	89	190	612	350	1,412

	ほぼ毎日	週3-4回	週1-2回	月1-2回	年に数回	なし	不詳	合計
	関東	140	25	37	69	119	277	190
関西	98	17	28	36	71	188	119	555
合計	238	42	65	105	190	465	309	1,412

表6-2 地域別、孫のいる成人子への夫の援助：孫の身の回りの世話、孫の送り迎え、子ども宅の家事手伝い

	孫の身の回りの世話							孫の送り迎え							Total			
	ほぼ毎日	週3-4回	週1-2回	月1-2回	年に数回	なし	知らない	不詳	合計	ほぼ毎日	週3-4回	週1-2回	月1-2回	年に数回		なし	知らない	不詳
関東	44	22	46	47	53	218	2	53	485	11	8	10	20	48	277	4	107	485
関西	30	13	20	35	35	150	2	45	330	10	3	6	12	32	195	1	71	330
合計	74	35	66	82	88	368	4	98	815	21	11	16	32	80	472	5	178	815

	子ども宅の家事手伝い								
	ほぼ毎日	週3-4回	週1-2回	月1-2回	年に数回	なし	知らない	不詳	Total
関東	12	2	10	13	32	304	4	108	485
関西	12	3	3	10	20	201	2	79	330
合計	24	5	13	23	52	505	6	187	815

表6-3 地域別、孫のいる成人子への妻の援助：病氣・急用時の孫の世話、孫の悩み相談

	病氣・急用時の孫の世話					孫の悩み相談						
	ほぼ毎回	2回に1回	どうしようもない時だけ	機会なし	不詳	合計	ほぼ毎回	2回に1回	どうしようもない時だけ	機会なし	不詳	合計
関東	233	60	321	173	70	857	111	57	195	342	152	857
関西	145	39	204	120	47	555	81	42	128	205	99	555
Total	378	99	525	293	117	1,412	192	99	323	547	251	1,412

表6-4 地域別、孫のいる成人子への夫の援助：病氣・急用時の孫の世話、孫の悩み相談

	病氣・急用時の孫の世話					孫の悩み相談								
	ほぼ毎回	2回に1回	どうしようもない時だけ	機会なし	知らない	不詳	合計	ほぼ毎回	2回に1回	どうしようもない時だけ	機会なし	知らない	不詳	合計
関東	53	32	142	196	15	47	485	22	16	77	268	22	80	485
関西	40	18	94	135	12	31	330	20	8	56	181	15	50	330
Total	93	50	236	331	27	78	815	42	24	133	449	37	130	815

5. 親子世帯間の援助の実態と意識に関する調査

(高齢者世帯 v s 成人子世帯)

結果の概要

調査票

成人子世帯

**親子世帯間の援助の実態と意識に関する調査
結果の概要**

**親子世帯間の援助に関する研究会
担当：国立社会保障・人口問題研究所
企画部第3室
平成17（2005）年3月**

目 次

I. 調査の概要

- 1.1 調査の目的と沿革
- 1.2 調査の手続きと調査票の回収状況

II. 世帯の属性

- 2.1 高齢者世帯の属性
 - 1) 配偶関係・年齢
 - 2) 子ども・孫
 - 3) 社会経済的屬性
- 2.2 成人子世帯の属性
 - 1) 配偶関係・年齢
 - 2) 子ども
 - 3) 社会経済的屬性（学歴・就業状態・収入）
 - 4) 親の年齢と同別居状況

III. 育児支援関係

- 3.1 親からの育児支援
 - 1) 成人子から見た祖父母からの子育て支援
 - 2) 祖父母から見た成人子への子育て支援
- 3.2 親への世話的支援
 - 1) 成人子が親に対して行った支援
 - 2) 祖父母が成人子から受けた支援

IV. 家族・親子関係に関する規範・意識

- 4.1 家族に関する規範・意識
- 4.2 親子関係に関する規範・意識
- 4.3 援助に関する公的支援
- 4.4 家族範囲に関する意識

V. 成人子の子ども、祖父母の孫（最交流子の子ども）の状況

- 5.1 通園・通学の状況
- 5.2 家庭教育費

VI. 経済的援助の概要

6.1 祖父母世帯から子ども世帯に対する経済的援助

6.2 子ども世帯から祖父母世帯に対する経済的援助

VII. 資産と生前贈与

7.1 資産の比較

7.2 所得、資産保有額と成人子への高額贈与

VIII. 地域差

8.1 世帯属性と居住形態

8.2 親子の居住地間の距離

8.3 経済状況の違い

8.4 経済的援助関係（老親から孫への移転）の違い

1) 妻の親からの移転

2) 夫の親からの移転

3) 高齢者が孫に対して行っている経済的移転（高齢者が回答）

8.5 経済的援助関係（成人子から親への移転）の違い

1) 妻の親に対する経済的援助

2) 夫の親に対する経済的援助

8.6 世話的援助関係（成人子から高齢者世帯へ）の違い

1) 「病気が怪我の時の看病」の違い

2) 「悩み相談」に関する違い

8.7 世話的援助関係（高齢者世帯から孫世帯へ）の違い

執筆者名 (アイウエオ順)	担当部分
上枝 朱美	VI
勝又 幸子	I & VIII
周 燕 飛	VII
千年 よしみ	III
守泉 理恵	II & IV

I. 調査の概要

1.1 調査の目的と沿革

本調査の目的は、「老親と成人子」、「祖父母と孫」といった、世代を超えた親子関係における交流、経済的援助と育児支援や介護支援などの世話的援助の実態を把握すると同時に、親子間の意識の違いがその援助関係に影響を与えているかどうかを知ることにある。調査は高齢者世帯を対象としたものと成人子世帯を対象としたもの、2つの調査を実施した。

調査対象とした、「高齢者世帯」とは50～70歳代の妻のいる世帯で、0歳から6歳の孫が1人以上いる世帯と定義し、同居非同居の形態は問わなかった。また、「成人子世帯」とは20歳以上の妻のいる世帯で、0歳から6歳の子どもが1人以上いる世帯と定義し、同居非同居の形態は問わなかった。両調査とも回答者は妻とした。

調査項目には、所得や資産及び遺産相続など、プライバシーに関わる質問が含まれていたため、経験上回収率が低くなることが懸念された。そこで、分析に耐えるだけのデータを確実に得るために、民間調査会社の維持運営するパネルデータを利用した。予算の制約内で、各調査1,000サンプル以上の郵送調査で有効回収率は最低でも70%を下回らないという、厳しい条件の仕様書を提示して複数の調査会社より相見積をとった。その結果当該調査会社に決定し、分析に利用できる十分なデータが入手できた。

1.2 調査の手続きと調査票の回収状況

本調査は民間調査会社の標本（JSR アクセスパネル）の一部を使って行った。JSR アクセスパネルは日本統計調査株式会社が整備した標本で住民基本台帳をベースにして毎年維持管理されている（詳細は注参照）。調査地域としては首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）と阪神圏（京都府、大阪府、兵庫県）を選んだ。高齢者世帯を対象とした調査（以下高齢者調査と呼ぶ）は、2003年12月2回のスクリーニングで高齢者世帯から0～6歳の孫のいる1,625世帯を抽出した。成人子世帯を対象とした調査（以下成人子調査と呼ぶ）は、スクリーニング無しで同数をパネルより抽出した。2004年1月調査票が郵送法で配布・回収された。有効回収数は高齢者調査が1,412（有効回収率86.9%）で成人子調査が1,466（有効回収率90.2%）で目標を上回るデータサンプルが入手できた。

本調査では老親世帯と成人子世帯間の私的移転を見ることを目的としているが、JSR アクセスパネルの標本抽出における制約から、両世帯間に血縁関係の確認はできない。しかし、II. 世帯状況で観察できるように両者に擬似親子関係を設定することは妥当だと判断した。

（注）JSR アクセスパネルの概要：住民基本台帳からの無作為抽出で選び、その世帯に年間調査協力契約を取り付けた数。

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県） 約10万世帯（35.5万人）

阪神圏（大阪府・兵庫県） 約4.6万世帯（16万人）

その他の地域 約5万世帯（18.5万人）

Ⅱ. 世帯の状況

2.1 高齢者世帯の属性

高齢者調査対象者の属性（6歳以下の孫を持つ女性）

1) 配偶関係・年齢

本調査の記入者である女性の配偶関係は、有配偶者が815名、離別独身者が66名、死別独身者が280名、未婚者が2名、不詳が249名であり、有効サンプル数は合計1,412であった。夫の情報も含めて詳細に見ると、有配偶のうち初婚どうしの夫婦は706、夫妻どちらか/両方が再婚の夫婦は37、離死別者で現在独身の女性346、配偶関係組み合わせ不詳321である。子世代を調べた成人子票に比べ、配偶関係不詳が多い。

表1 調査対象女性の配偶関係組合せ

配偶関係組合せ	標本数	割合(%)
妻初婚×夫初婚	706	50.0
妻初婚×夫再婚	18	1.3
妻再婚×夫初婚	10	0.7
妻再婚×夫再婚	9	0.6
妻離別独身	66	4.7
妻死別独身	280	19.8
妻未婚	2	0.1
不詳	321	22.7
総数	1412	100.0

調査対象女性、およびその配偶者の年齢分布は以下の通りである。調査対象女性の年齢分布では、60代が最も多く、6割を占める。夫は、60～74歳層が中心となっている。

表2 調査対象女性の年齢

年齢	標本数	割合(%)
50～54歳	37	2.6
55～59歳	264	18.7
60～64歳	425	30.1
65～69歳	464	32.9
70～74歳	196	13.9
75～79歳	26	1.8
総数	1412	100.0

表3 夫の年齢

年齢	標本数	割合(%)	有効%
45～49歳	1	0.1	0.1
50～54歳	18	1.3	1.7
55～59歳	80	5.7	7.5
60～64歳	173	12.3	16.3
65～69歳	269	19.1	25.3
70～74歳	202	14.3	19.0
75～79歳	59	4.2	5.5
80～84歳	5	0.4	0.5
85～89歳	3	0.2	0.3
90～94歳	1	0.1	0.1
不詳	253	17.9	23.8
合計	1064	75.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	348	24.6	
総数	1412	100.0	

2) 子ども・孫

表4は、調査対象女性が持つ現存子ども数を示したものである。子ども2人のケースが6割近くを占め、次いで3人が23.4%である。子ども1人の女性も1割いる。平均現存子ども数は2.17人である。親世代を調査した祖父母票では、調査対象女性の年齢分布が50歳以上であることから、再生産期間は終了しているとみなされるので、この子ども数は完結子ども数であるといえる。

表4 現存子ども数

現存子ども数	標本数	割合(%)
1人	178	12.6
2人	845	59.8
3人	331	23.4
4人	33	2.3
5人	6	0.4
6人	1	0.1
不詳	18	1.3
総数	1412	100.0

子どもの年齢については、表5・6の通りである。第1子は30～40歳代前半、第2子は30歳代を中心に分布している。もっとも交流のある子どもは第1子が54.4%、第2子が35.1%でこの両者に集中しているので、本調査における祖父母票の「親子」は、およそ60歳代の親と30～40歳代の子どもの関係を中心に観察することになるといえる。

表5 第1子年齢

年齢	標本数	割合(%)
20-24歳	2	0.1
25-29歳	56	4.0
30-34歳	270	19.1
35-39歳	499	35.3
40-44歳	424	30.0
45-49歳	81	5.7
50-54歳	16	1.1
55-59歳	4	0.3
不詳	60	4.2
総数	1412	100.0

表6 第2子年齢

年齢	標本数	割合(%)
15-19歳	1	0.1
20-24歳	24	1.7
25-29歳	136	9.6
30-34歳	362	25.6
35-39歳	464	32.9
40-44歳	173	12.3
45-49歳	22	1.6
50-54歳	3	0.2
不詳・非該当	227	2.7
総数	1412	86.6

一方、子どもの子ども、つまり調査対象女性にとっての平均孫数は4.7人で、数の分布は表7に示した。5人以内のケースが77.2%を占め、もっとも多いのは2人である。現代日本の少子化を反映している集計結果であるといえよう。

表7 孫の数

孫の総数	標本数	割合(%)
1人	180	12.7
2人	278	19.7
3人	241	17.1
4人	234	16.6
5人	157	11.1
6人	72	5.1
7人	32	2.3
8人	19	1.3
9人	5	0.4
10人以上	8	0.6
孫年齢不詳	168	11.9
現存子ども数不詳	18	1.3
総数	1412	100.0

表8 末孫年齢（最交流子の子ども）

年齢	標本数	割合(%)
0～4歳	721	51.1
5～9歳	389	27.5
10～14歳	62	4.4
15～19歳	11	0.8
20～24歳	1	0.1
30～34歳	1	0.1
末孫年齢不詳	172	12.2
最交流子無子	7	0.5
最交流子不詳	48	3.4
総数	1412	100.0

3) 社会経済的屬性

調査対象女性およびその配偶者の社会・経済的屬性は以下の通りである。まず、学歴は表9・10に示されている。調査対象女性では高校／高等女学校卒が最も多く、過半数を占める。夫の場合も高校／旧制中学校卒が最も多く、次いで大学・大学院卒が多い。

表9 調査対象女性の学歴

学歴	標本数	割合(%)
小学校	17	1.2
中学校・高等小学校	296	21.0
高校・高等女学校	817	57.9
短大・高専	181	12.8
大学・大学院	73	5.2
その他	18	1.3
不詳	10	0.7
総数	1412	100.0

表10 夫の学歴

学歴	標本数	割合(%)	有効%
小学校	4	0.3	0.5
中学校・高等小学校	145	10.3	17.8
高校・旧制中学校	319	22.6	39.1
短大・高専・旧制高等学校	52	3.7	6.4
大学・大学院	288	20.4	35.3
その他	3	0.2	0.4
不詳	4	0.3	0.5
合計	815	57.7	100.0
夫なし・配偶関係不詳	597	42.3	
総数	1412	100.0	

従業上の地位は、年齢を反映して、女性、夫とも「無職・家事」が多い。自営業主・家族従業者・内職のサンプルも1割程度いる。女性に関しては、パート・アルバイトとして働いている人が15.1%いる。

表 11 調査対象女性の従業上の地位

従業上の地位	標本数	割合(%)
民間正規職員	49	3.5
公的機関正規職員	4	0.3
パート・アルバイト	213	15.1
派遣・嘱託・非常勤	16	1.1
自営業主・家従・内職	146	10.3
無職・家事	935	66.2
不詳	49	3.5
総数	1412	100.0

表 12 夫の従業上の地位

従業上の地位	標本数	割合(%)	有効%
民間正規職員	131	9.3	16.1
公的機関正規職員	9	0.6	1.1
パート・アルバイト	59	4.2	7.2
派遣・嘱託・非常勤	40	2.8	4.9
自営業主・家従・内職	150	10.6	18.4
無職・家事	395	28.0	48.5
不詳	31	2.2	3.8
合計	815	57.7	100.0
夫なし・配偶関係不詳	597	42.3	
総数	1412	100.0	

上述の従業上の地位を反映し、年収は女性、夫とも低めである。女性は3割が「なし」で103万円以内の人と合わせると6割を占める。夫も、200～300万円台が最も多い。夫婦合算では、300万円台を中心に両側に分布している。

表 13 調査対象女性の年収

年収区分	標本数	割合(%)
なし	427	30.2
1～103万円	465	32.9
104～130万円	78	5.5
131～199万円	104	7.4
200～299万円	125	8.9
300～399万円	56	4.0
400～499万円	19	1.3
500～599万円	14	1.0
600～799万円	5	0.4
不詳	119	8.4
合計	1412	100.0

表 14 夫の年収

年収区分	標本数	割合(%)	有効%
なし	53	3.8	6.5
200～299万円	210	14.9	25.8
300～399万円	182	12.9	22.3
400～499万円	99	7.0	12.1
500～599万円	68	4.8	8.3
600～799万円	66	4.7	8.1
800～999万円	34	2.4	4.2
1000～1499万円	35	2.5	4.3
1500万円以上	13	0.9	1.6
不詳	55	3.9	6.7
合計	815	57.7	100.0
夫なし・配偶関係不詳	597	42.3	
総計	1412	100.0	

表 15 夫婦合算の年収

年収区分	標本数	割合 (%)	有効%
なし	37	2.6	4.5
100～199万円	67	4.7	8.2
200～299万円	73	5.2	9.0
300～399万円	154	10.9	18.9
400～499万円	131	9.3	16.1
500～599万円	89	6.3	10.9
600～699万円	52	3.7	6.4
700～799万円	34	2.4	4.2
800～899万円	26	1.8	3.2
900～999万円	19	1.3	2.3
1000～1099万円	24	1.7	2.9
1100～1199万円	5	0.4	0.6
1200～1299万円	10	0.7	1.2
1300万円以上	15	1.1	1.8
不詳	79	5.6	9.7
合計	815	57.7	100.0
夫なし・配偶関係不詳	597	42.3	
総数	1412	100.0	

2.2 成人子世帯の属性

成人子調査対象者の属性（6歳以下の子どもを持つ女性）

1) 配偶関係・年齢

本調査の記入者である女性の配偶関係は有配偶者 1,347 名、離死別者 38 名、不詳 73 名であり、有効サンプル数は合計 1,458 であった。夫の情報も含めて詳細に見ると、有配偶のうち初婚どうしの夫婦は 1,234、夫妻どちらか／両方が再婚の夫婦は 81、離死別者で現在独身の女性 38、配偶関係組み合わせ不詳が 105 である。

表 16 調査対象女性の配偶関係組合せ

配偶関係組合せ	度数	割合 (%)
妻初婚×夫初婚	1234	84.6
妻初婚×夫再婚	40	2.7
妻再婚×夫初婚	29	2.0
妻再婚×夫再婚	12	0.8
妻離別独身	34	2.3
妻死別独身	4	0.3
不詳	105	7.2
総数	1458	100.0

調査対象女性、およびその配偶者の年齢分布は以下の通りである。調査対象女性の年齢分

布では、25～44歳のサンプルが97.6%を占めている。30～34歳層がやや少ない。夫の年齢では、30～44歳を中心として、25～49歳の範囲でほとんどのサンプルが分布している。

表 17 調査対象女性の年齢

妻年齢	度数	割合 (%)
20-24歳	17	1.2
25-29歳	450	30.9
30-34歳	216	14.8
35-39歳	300	20.6
40-44歳	457	31.3
45-49歳	18	1.2
総数	1458	100.0

表 18 夫の年齢

夫年齢	度数	割合 (%)	有効%
20-24歳	15	1.0	1.1
25-29歳	170	11.7	12.6
30-34歳	312	21.4	23.2
35-39歳	362	24.8	26.9
40-44歳	349	23.9	25.9
45-49歳	120	8.2	8.9
50-54歳	16	1.1	1.2
55-59歳	2	0.1	0.1
不詳	1	0.1	0.1
合計	1347	92.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

2) 子ども

調査対象女性の持つ子どもの数は表 19 の通りである。子ども 2 人の女性が過半数を占め、次いで 1 人、3 人となっている。平均現存子ども数は 1.98 人である。この調査では、6 歳以下の子どもを持つ女性を対象としているため、現存子ども 1 人の女性のうち 84.5% が結婚持続期間 10 年未満である。つまり、意図した子ども数まで生み終わっていないサンプルが多く含まれている。予定子ども数を見ると、平均値は 2.20 人で、2 人を希望する女性が 6 割と圧倒的に多い。次いで予定 3 人が 22% であるが、理想子ども数では「3 人」が 48.9% であることから、何らかの事情で現実に持つ子ども数を減らしている夫婦も多いことが分かる。

表 19 子ども数と子ども数に関する意識の分布と平均値

子ども数	現存子ども数		理想子ども数		予定子ども数	
	標本数	割合%	標本数	割合%	標本数	割合%
1 人	367	25.2	16	1.1	138	9.5
2 人	796	54.6	620	42.5	925	63.4
3 人	248	17.0	713	48.9	321	22.0
4 人	39	2.7	79	5.4	37	2.5
5 人	6	0.4	20	1.4	12	0.8
6 人	—	—	—	—	—	—
7 人	—	—	1	0.1	—	—
不詳	2	0.1	9	0.6	25	1.7
総数	1458	100.0	1458	100.0	1458	100.0

	有効票数	平均値	有効票数	平均値	有効票数	平均値
総数	1456	1.98	1449	2.63	1433	2.20

3) 社会経済的屬性 (学歴・就業状態・収入)

次に、調査対象女性およびその配偶者の社会・経済的屬性をみてみよう。まず、学歴は表 20・21 の通りである。女性は高卒が最も多く、夫は大卒が最も多い。夫婦の組合せでは、妻高卒×夫高卒 16.7%、妻短卒×夫大卒 16.5%、妻大卒×夫大卒 13.0%、妻高卒×夫大卒 9.2%の順に多く、全体の過半数、55.4%を占める。

表 20 調査対象女性の学歴

学歴	標本数	割合 (%)
中学校	34	2.3
高校	525	36.0
専修学校	246	16.9
短大・高専	426	29.2
大学・大学院	223	15.3
不詳	4	0.3
総数	1458	100.0

表 21 夫の学歴

学歴	標本数	割合 (%)	有効%
中学校	59	4.0	4.4
高校	436	29.9	32.4
専修学校	191	13.1	14.2
短大・高専	44	3.0	3.3
大学・大学院	611	41.9	45.4
その他	2	0.1	0.1
不詳	4	0.3	0.3
合計	1347	92.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

従業上の地位は、調査対象女性の場合、6歳以下の子どもを1人以上持っているという状況を反映して、無職が圧倒的に多く67.3%である。次いで、パート・アルバイトが19.5%で、この2カテゴリで86.8%を占める。フルタイム雇用就業している女性(民間/公的機関の正規職員)は3.9%のみであった(表22)。

夫に関しては、フルタイム雇用就業者が77.8%、自営業主等が11.5%で、安定した仕事に就いているケースが89.3%を占めた(表23)。

表24・25はこれらの従業上の地位を反映しており、調査対象女性については「なし」が65.8%を占め、次いで「103万円の壁」といわれる年収103万円以内の女性が23.8%である。夫に関しては、400~700万円台を中心として分布している。その結果、夫婦合算の年収も、ほぼ夫の年収の分布に類似している。

表 22 調査対象女性の従業上の地位

従業上の地位	標本数	割合 (%)
民間正規職員	49	3.4
公的機関正規職員	9	0.6
パート・アルバイト	284	19.5
派遣・嘱託・非常勤	24	1.6
自営業主・家従・内職	97	6.7
無職・家事	982	67.4
不詳	13	0.9
総数	1458	100.0

表 23 夫の従業上の地位

従業上の地位	標本数	割合 (%)	有効%
民間正規職員	1042	71.5	77.4
公的機関正規職員	94	6.4	7.0
パート・アルバイト	9	0.6	0.7
派遣・嘱託・非常勤	11	0.8	0.8
自営業主・家従・内職	167	11.5	12.4
無職・家事	9	0.6	0.7
学生	2	0.1	0.1
不詳	13	0.9	1.0
合計	1347	92.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

表 24 調査対象女性の収入

年収区分	標本数	割合(%)
なし	960	65.8
1～103万円	347	23.8
104～130万円	29	2.0
131～199万円	19	1.3
200～299万円	25	1.7
300～399万円	19	1.3
不詳	59	4.0
総数	1458	100.0

表 25 夫の収入

年収区分	標本数	割合(%)	有効%
なし	6	0.4	0.4
200～299万円	90	6.2	6.7
300～399万円	136	9.3	10.1
400～499万円	243	16.7	18.0
500～599万円	235	16.1	17.4
600～799万円	359	24.6	26.7
800～999万円	154	10.6	11.4
1000～1499万円	57	3.9	4.2
1500万円以上	9	0.6	0.7
不詳	58	4.0	4.3
合計	1347	92.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

表 26 夫婦の合算年収

年収区分	標本数	割合(%)	有効%
なし	1	0.1	0.1
100～199万円	25	1.7	1.9
200～299万円	44	3.0	3.3
300～399万円	124	8.5	9.2
400～499万円	221	15.2	16.4
500～599万円	243	16.7	18.0
600～699万円	186	12.8	13.8
700～799万円	171	11.7	12.7
800～899万円	116	8.0	8.6
900～999万円	52	3.6	3.9
1000～1099万円	43	2.9	3.2
1100～1199万円	5	0.3	0.4
1200～1299万円	7	0.5	0.5
1300万円以上	14	1.0	1.0
不詳	95	6.5	7.1
合計	1347	92.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

4) 親の年齢と同別居状況

表 27・28・29・30 は親の年齢の分布を見たものである。調査対象女性の父母の年齢は、父親では 55～74 歳を中心に分布しており、母親では 50～74 歳を中心に分布している。一方、夫の父母では、両者とも 55～74 歳の範囲に多く分布している。父親、母親とも 60 代が中心であり、この年齢層では仕事を引退しているが、まだ身体的には元気な人が多い。この点において世代間の援助関係を見るのに適したサンプルを多く獲得できているといえる。

表 27 調査対象女性の父親の年齢

年齢	標本数	割合(%)	有効%
45-49歳	10	0.7	0.8
50-54歳	99	6.8	8.4
55-59歳	188	12.9	16.0
60-64歳	253	17.4	21.5
65-69歳	274	18.8	23.3
70-74歳	236	16.2	20.0
75-79歳	69	4.7	5.9
80-84歳	12	0.8	1.0
不詳	37	2.5	3.1
合計	1178	80.8	100.0
死亡・生死不詳	280	19.2	
総数	1458	100.0	

表 28 調査対象女性の母親の年齢

年齢	標本数	割合(%)	有効%
40-44歳	3	0.2	0.2
45-49歳	25	1.7	1.9
50-54歳	200	13.7	14.9
55-59歳	234	16.0	17.4
60-64歳	305	20.9	22.7
65-69歳	324	22.2	24.2
70-74歳	172	11.8	12.8
75-79歳	30	2.1	2.2
80-84歳	4	0.3	0.3
不詳	44	3.0	3.3
合計	1341	92.0	100.0
死亡・生死不詳	117	8.0	
総数	1458	100.0	

表 29 夫の父親の年齢

年齢	標本数	割合(%)	有効%
40-44歳	2	0.1	0.2
45-49歳	9	0.6	0.9
50-54歳	49	3.4	4.8
55-59歳	112	7.7	10.9
60-64歳	204	14.0	19.8
65-69歳	252	17.3	24.5
70-74歳	214	14.7	20.8
75-79歳	99	6.8	9.6
80-84歳	21	1.4	2.0
85-89歳	7	0.5	0.7
90-94歳	2	0.1	0.2
不詳	58	4.0	5.6
合計	1029	70.6	100.0
死亡・生死不詳	318	21.8	
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

表 30 夫の母親の年齢

年齢	標本数	割合(%)	有効%
30-34歳	1	0.1	0.1
40-44歳	4	0.3	0.3
45-49歳	19	1.3	1.6
50-54歳	98	6.7	8.2
55-59歳	175	12.0	14.6
60-64歳	291	20.0	24.4
65-69歳	293	20.1	24.5
70-74歳	165	11.3	13.8
75-79歳	53	3.6	4.4
80-84歳	18	1.2	1.5
85-89歳	6	0.4	0.5
90-94歳	1	0.1	0.1
不詳	71	4.9	5.9
合計	1195	82.0	100.0
死亡・生死不詳	152	10.4	
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

表 31 は調査対象女性の父母・義父母の生死状況をみたものである。これによると、父・母・義父・義母の 4 人とも健在の場合が約半数を占める。続いて、父か義父は亡くなっているが、母・義母は健在という組み合わせが 25%程度ある。また、表 32 で示される母・義母を中心とした同別居状況では、母・義母とも健在だが両方とも別居しているというケースが圧倒的に多く、7 割近くを占めている。母または義母と同居しているサンプルは 1 割にも満たない。

親の属性は、4 人とも健在、あるいは母か義母は両方健在であり、年齢は 60 代前後で、ほとんどの場合別居しているというケースが多いといえる。

表 31 親の生死状況

健在の親	標本数	割合(%)	有効%
父・母・義父・義母	721	49.5	53.5
父・母・義父	48	3.3	3.6
父・母・義母	183	12.6	13.6
父・母	22	1.5	1.6
父・義父・義母	43	2.9	3.2
父・義父	5	0.3	0.4
父・義母	7	0.5	0.5
父	3	0.2	0.2
母・義父・義母	152	10.4	11.3
母・義父	7	0.5	0.5
母・義母	45	3.1	3.3
母	8	0.5	0.6
義父・義母	17	1.2	1.3
義父	2	0.1	0.1
義母	4	0.3	0.3
全員死亡	2	0.1	0.1
不詳を含む組合せ	78	5.3	5.8
合計	1347	92.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

表 32 母・義母との同別居状況

同別居状況	標本数	割合(%)	有効%
母義母健在/母同居	27	1.9	2.0
母義母健在/義母同居	55	3.8	4.1
母義母健在/両方別居	995	68.2	73.9
母義母健在/両方同居	3	0.2	0.2
母のみ健在/別居	81	5.6	6.0
母のみ健在/同居	4	0.3	0.3
義母のみ健在/別居	60	4.1	4.5
義母のみ健在/同居	10	0.7	0.7
母義母死亡	12	0.8	0.9
不詳	100	6.9	7.4
合計	1347	92.4	100.0
夫なし・配偶関係不詳	111	7.6	
総数	1458	100.0	

Ⅲ. 育児支援関係

3.1 親からの育児支援

祖父母、中でも祖母は幼い子どもを持つ母にとって、最も大きな子育て支援者の一人である。本章では、「親子世帯間の援助の実態と意識に関する調査」の結果から、親から成人子へ与えられる子育て支援について概観する。「親子世帯間の援助の実態と意識に関する調査」では、0～6歳の子どもを持つ母（成人子）と、0～6歳の孫を持つ祖母の二者を対象にそれぞれ別個の調査票を配布した。本章では、成人子から見た祖父母からの子育て支援、祖父母から見た成人子（息子・娘）への子育て支援の実態について、調査の結果を報告する。

1) 成人子から見た祖父母からの子育て支援

表1は、妻側・夫側、それぞれの祖父母からの育児に関わる支援頻度を示している。妻側・夫側にかかわらず、祖父母が最も多く手助けを行っているのは、「子どもの身の回りの世話」である。中でも妻側祖母の支援ぶりが目立つ。子どもの身の回りの世話を月1回以上行っている妻側祖母は全体の4割弱に達し、年に数回手伝う祖母を含めると約7割の妻側祖母が孫の身の回りの世話を行っている。一方、妻側祖父の役割も見逃せない。妻側祖父の4分の1が月1回以上子どもの身の回りの世話を行っており、年に数回程度の祖父を合わせると約半数の妻側祖父が子どもの身の回りの世話を行っている。これは夫側祖母が子どもの身の回りの世話をを行う頻度の分布とほぼ重なる。夫側祖父母との同居が減少し、妻側祖父母の子育て支援に関わる役割増大の一端がうかがえる。

表1 祖父母からの手助け(1)：

子どもの身の回りの世話、子どもの保育園・幼稚園等の送り迎え、妻宅の家事手伝い

		n	月に 1回以上	年に数回	なし	不詳	合計
妻の母親からの手助け	子どもの身の回りの世話	1,347	37.6	29.7	32.3	0.4	100.0
	子どもの保育園・幼稚園等の送り迎え	1,347	6.7	10.0	81.7	1.6	100.0
	妻宅の家事手伝い	1,347	11.3	14.7	72.5	1.5	100.0
妻の父親からの手助け	子どもの身の回りの世話	1,185	25.1	20.7	53.9	0.3	100.0
	子どもの保育園・幼稚園等の送り迎え	1,185	3.1	5.1	90.2	1.6	100.0
	妻宅の家事手伝い	1,185	3.0	4.6	90.5	1.8	100.0
夫の母親からの手助け	子どもの身の回りの世話	1,202	21.5	20.4	57.6	0.5	100.0
	子どもの保育園・幼稚園等の送り迎え	1,202	3.1	5.0	90.4	1.5	100.0
	妻宅の家事手伝い	1,202	5.1	5.9	87.5	1.5	100.0
夫の父親からの手助け	子どもの身の回りの世話	1,034	14.5	14.3	70.3	0.9	100.0
	子どもの保育園・幼稚園等の送り迎え	1,034	1.2	2.3	94.7	1.8	100.0
	妻宅の家事手伝い	1,034	1.3	1.5	95.7	1.5	100.0

子どもの保育園・幼稚園の送り迎えは、妻側・夫側、祖母・祖父にかかわらずあまり多くはなかった。サンプルを就業している母親に絞らなかつたことが影響していることも考えられる。妻宅の家事手伝いに関しても、それほど多くの支援を受けている傾向は見られない。